

電気電子工学委員会

(第24期・第7回)

議事録

日 時 令和2年2月 1 9 日 (水) 14:00～16:00

会 場 日本学術会議6階6-C (1) 会議室

出席者 大西委員長、波多野副委員長、中野幹事、大柴幹事、浅間委員、金子委員、渡辺委員、石原委員、大橋委員、黒田委員、河野委員、仙石委員、津田委員、日高委員、八木谷委員

議 事

1. 配布資料確認と前回議事録確認

2. 会員の補充について

吉田進委員に代わり三瓶政一教授が補欠会員に選任された。

3. 総会、部会報告

部会と総会の報告があった

4. 分科会活動報告

各分科会委員長より活動状況の説明があった。

5. 今後の活動について

大西委員長より、資料2および資料3、資料4、資料5に基づき今後の活動に関する経緯の説明があった。まず資料2と資料3に基づいて、日本におけるジャーナル発信力と国際的なジャーナルを取り巻く状況分析について以下のような説明があった。

日本のジャーナルで国際的に認知されたジャーナルを増やすことが求められているが、良い方策がとられてきていない。オープンアクセスの論文雑誌や新興雑誌への投稿が増えており、投稿論文の上位になっている。例えば基礎研究より臨床研究や環境研究へという研究分野の変化、企業では産学連携の論文が増えている。

次に、資料4に基づき電気・情報関連5学会の連絡会が平成16年に設置された経緯（関連する5学会が協力して英文論文誌を発行することの必要性や、従来の英文論文誌に比べて速報性を有する共通電子ジャーナルの必要性について関連する学会で取り組むことを共通認識としていた）について説明があった。

以上の説明から、資料 5 に基づき、電気電子工学関連学協会の協働に向けてアンケート調査を実施することが提案され、審議がなされた結果、以下のような意見が出た。

問題意識は共有されるが、具体的に前に進めない状況が危惧される。論文は中身であり、量より質である。日本語で書かれていてもよい論文であれば読まれるので、あくまで日本語で専門教育を行っている日本なのだから、日本語のジャーナルを強化するということもあり得る。日本の研究力強化と、日本の学会やジャーナルの強化の問題と一緒に議論されているが、問題を整理、明確にする必要がある。

日本の論文誌の IF を上げるためにはオープンアクセスが有効であり、IF が上がると良質な論文が集まり、学会も活性化するが、学会の収入面では必ずしも収益が上がらないという問題がある。

6. その他

特になし

配布資料

資料 1 電気電子工学委員会（第 6 回）議事要旨

資料 2 ジャーナル発信力強化について

資料 3 日本の研究力後退の現状

資料 4 電気 5 学会団結史

資料 5 アンケートの趣旨